

インターバンクの声（2015 年 11 月 6 日）

米雇用統計の発表がある月初めの週は、水曜日に民間会社から発表される米 ADP 雇用統計と木曜日に労働省が発表する新規失業保険週間申請件数を金曜日の雇用統計本番の先行指標として参考にする人も多いだろう。ADP 雇用統計が発表され始めたのは 2006 年で、10 年足らず前からの指標だ。当初、それほど注目されることはなかったが、ある年に労働省からの雇用統計の数字に近い数字を数か月間続け、しかも増加と減少の変化の波も的確に示すような結果となったことから、にわかに注目され始めたのだ。しかし、さすがに調査対象サンプルに政府機関が含まれていないこともあって、長期間同じような結果を出し続けることはできず、極端に数字が乖離する期間もあり、いつしか参考程度の扱いになっている。また、新規失業保険申請件数も失業者の増減を反映している数字として、やはり雇用統計の先行指標として捉える人も多い。昨日も今年の 2 月以来の増加となる数字が発表され、今晚の雇用統計を心配する見方もあるが、気を付けなければいけないのは、昨日発表された 10 月 31 日までの週の数字は今晚の雇用統計には影響しないことだ。昨日の数字や来週の数字の変化は、12 月 4 日に発表される雇用統計に影響することになる。この点を踏まえて、今晚の数字を占う参考にして頂きたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。